

古田大次郎 （明治二十二年一月一日東京生れ、大正十四年十月十五自殺（一九二五）。 早稲田大學在學中社會主義者知り、更（い）中濱哲を識りて無政府主義者となる。ギロチン社を興して、大正十一年テ口資金獲得のため銀行員を刺殺。翌年逮捕、市ヶ谷刑務所で刑死した。

著書『死の懺悔』（第五版・大正十五年六月二十八日、縮刷版・昭和三年十一月十五日春秋社、再刊・八年六月十五日「春秋文庫」）、遺著『死刑囚の思ひ出』（昭和五年四月一日大森書房、再刊・二十二年十月一日鍾谷書店）。

